

平成28年3月15日

各位

会社名 株式会社メディビックグループ
代表者名 代表取締役社長 窪島 肇
(コード番号 2369 : 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 疋田 賢司
(Tel: 03-5439-9691)

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたのでお知らせいたします。

○ 開催状況

開催日時	平成28年3月11日 15:30~16:30
開催方法	対面による実開催
開催場所	東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8 東京証券会館 9階 第8会議室
説明会資料名	投資家説明会資料

【添付資料】 投資説明会において使用した資料

※説明会の動画を以下のサイトにてご覧頂けます。

<http://vspm.irstreet.com/browse/index.php?code=caiJtVkf6nDo2&pr=mms>

本説明会ビデオをご覧いただく際に、パソコンの利用環境としてはInternet Explorer5.5以上のブラウザを推奨いたします。推奨ブラウザ以外の環境でご利用の場合には、正常に動作しない可能性がございますのでご了承ください。また、併せて映像再生ソフトとして、Windows Media Playerが必要となります。

ご利用のパソコンにソフトがインストールされていない場合は、最新のソフトをインストールしてご利用ください。

以上

株式会社メディビックグループ

2015年12月期決算 説明会

2016年3月11日

MediBic Group

目次

1. 2015年12月期決算 業績
 - ・ハイライト(売上高／損失) 前年同期比
 - ・セグメント別売上高及び損失
2. 2016年12月期 通期業績予測
3. 2016年12月期 トピックス
 - ・遺伝子事業
 - ・バンキング事業
 - ・再生医療事業
 - ・ロボット事業
4. 2016年以降の展望

1. 2015年12月期決算 業績 ハイライト 前年同期比(売上高/損失)

単位:千円

	第15期 連結累計期間 自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日	第16期 連結累計期間 自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日
売上高	346,308	104,446
経常損益	△304,851	△502,119
純損益	△356,651	△618,734
包括利益	△342,673	△623,964
純資産額	908,784	396,131
総資産額	980,142	434,225

1. 2015年12月期決算 業績

セグメント別 売上高及び損失

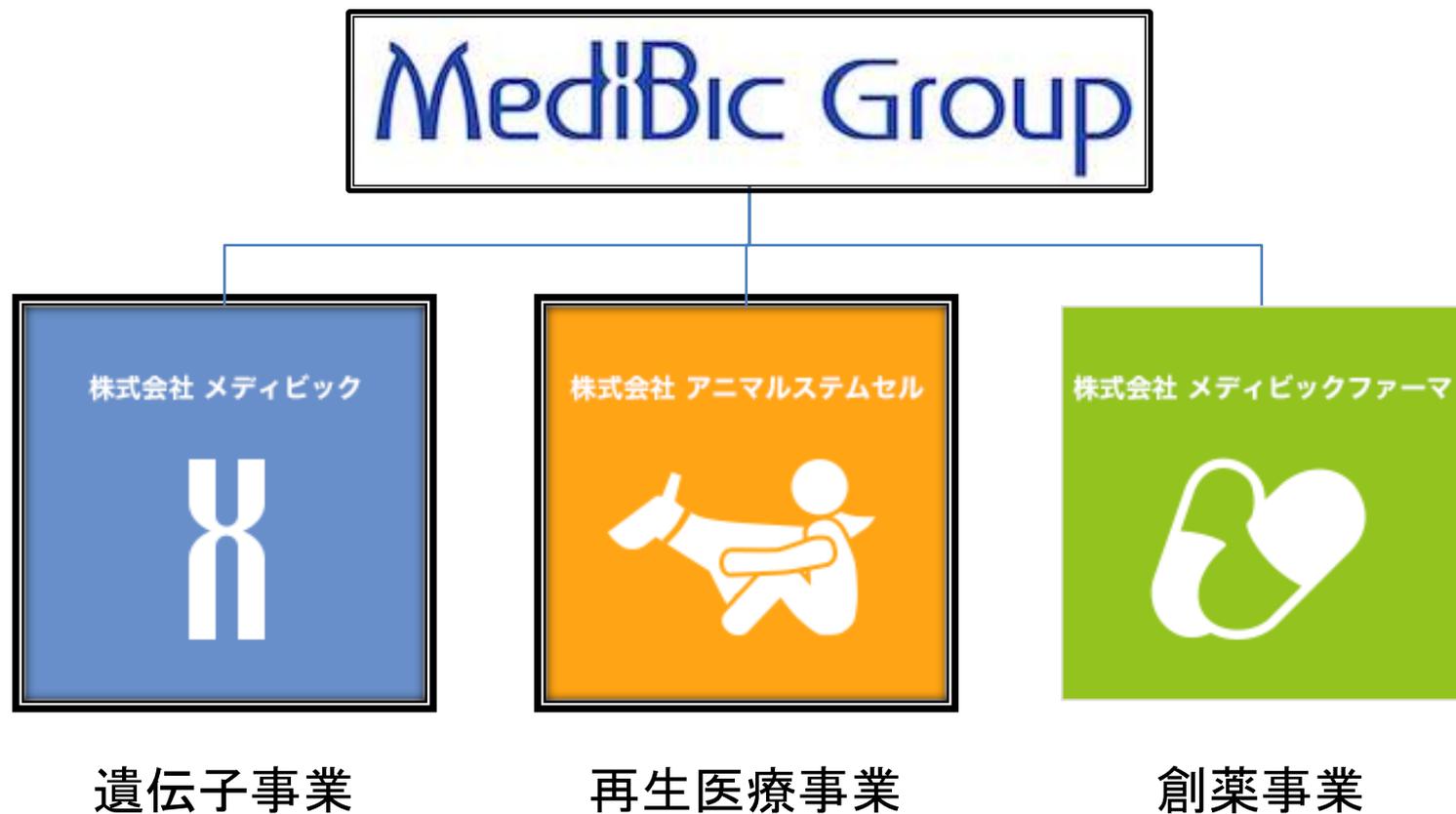
単位:千円

セグメント別	売上	損益	売上前年比	前年損益
遺伝子事業	70,800 (前年:60,885)	△98,093	116.3%	△73,468
治験支援事業	9,816 (前年:45,173)	△7,526	21.7%	△3,277
再生医療事業	23,830 (前年:207,390)	△135,043	11.5%	52,999

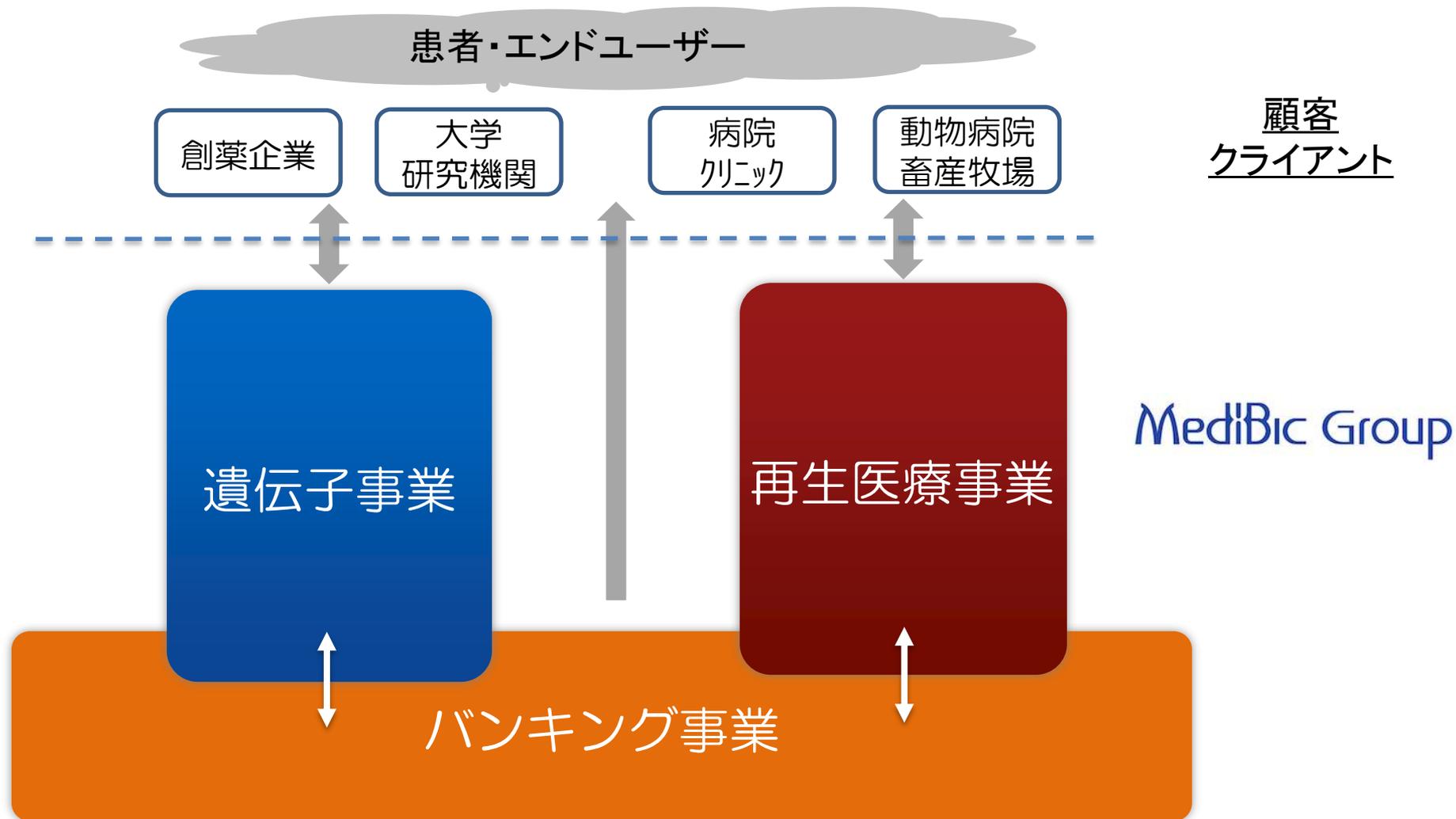
2. 2016年12月期 通期業績予測

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株当たり 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
2016年12月期 業績予想	364	5	8	3	0.12

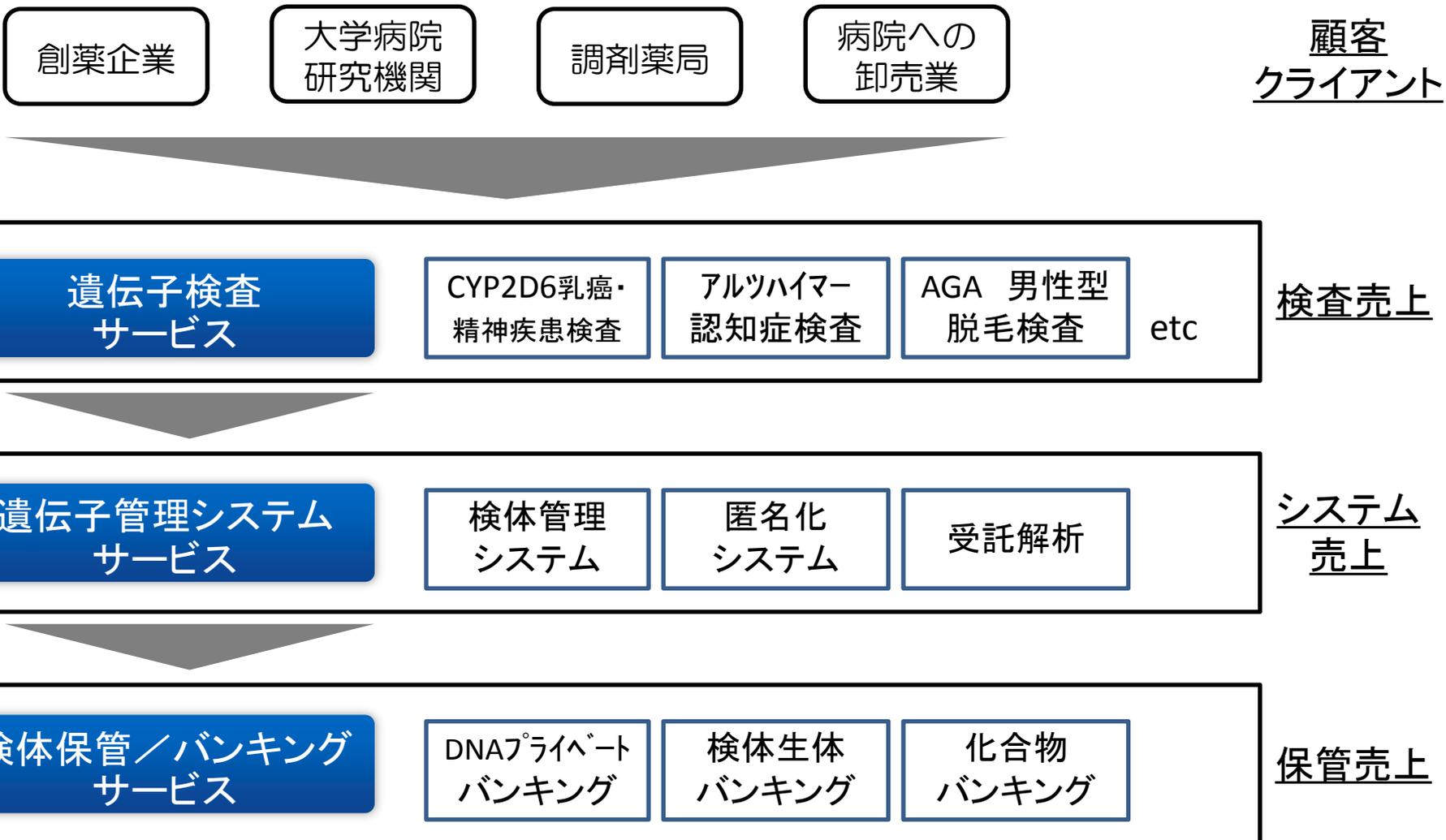
3. 2015年12月期 トピックス グループ運営の概要



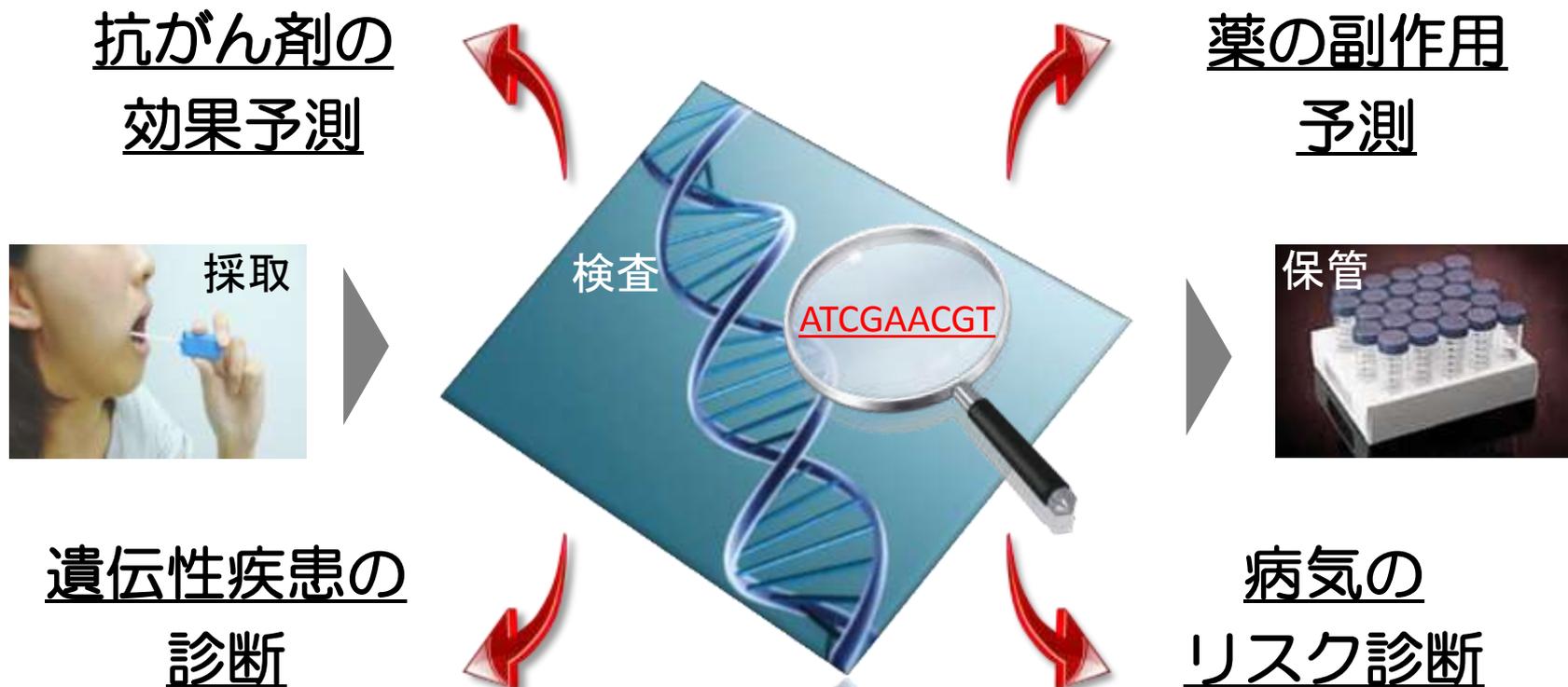
3. 2015年12月期 トピックス グループ運営の概要



3. 2015年12月期 トピックス 遺伝子事業の概要



3. 2015年12月期 トピックス 遺伝子検査サービス



創薬企業、薬局・病院施設などB2Bに注力し、大量受託を目指す。また、検査のみから脱却し、遺伝子情報を活用する

3. 2015年12月期 トピックス

遺伝子検体管理インフラサービス

検体管理システム

- GLP準拠、治験対応
- 開発、運営、解析の全フローに対応



遺伝子受託解析

- 創薬企業、大学、研究機関からの受託実績
- 研究・治験などに個別対応



遺伝子
管理
システム
サービス

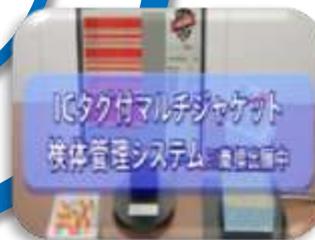
匿名化システム

- 二重匿名化
- 耐久性(超低温対応)
- 簡易管理



ICタグ管理

- ICタグで検体自動管理
- あらゆる検体容器対応
- 高耐久性



大学・研究機関での実績があり、今後はシステム単体での販売や、システム→バンキング売上など連携営業を強化する

3. 2015年12月期 トピックス 検体保管／バンキングサービス

公的機関と連携した検体保管サービス



セキュリティ、災害に対応した、長期保管・品質



DNA・治験検体保管

創薬開発への検体活用



細胞・化合物など
保管メニューの拡張



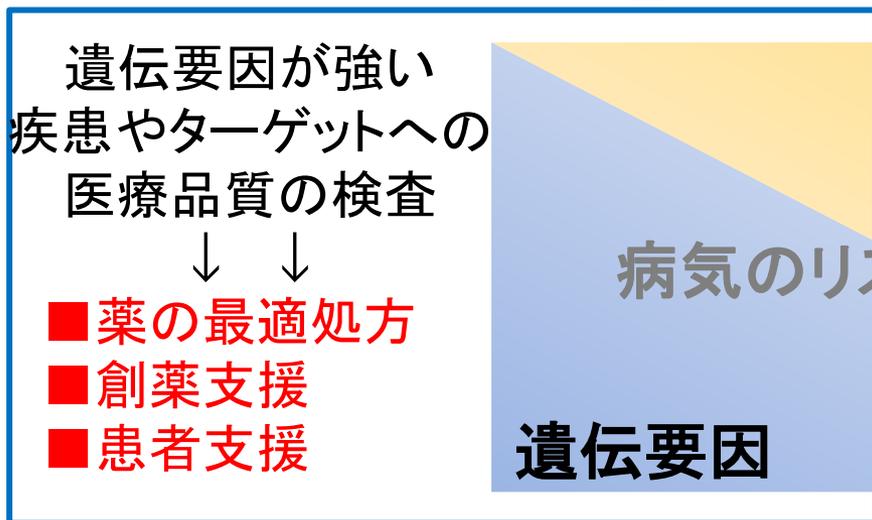
遺伝子情報の活用



長期安定保管する、守りのバンキングから、保管物の拡張・
創薬・治療法開発として売れる、攻めのバンキングへ移行

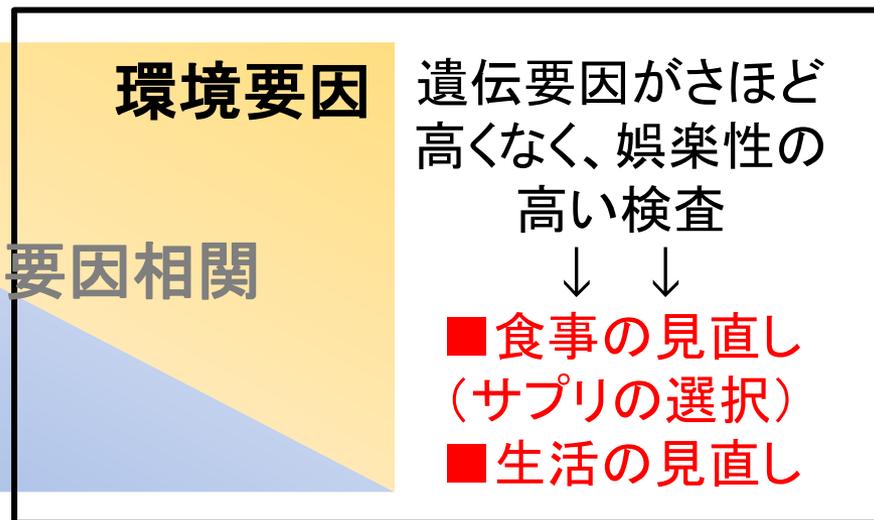
3. 2015年12月期 トピックス 当社の遺伝子事業の特徴

MediBic Group



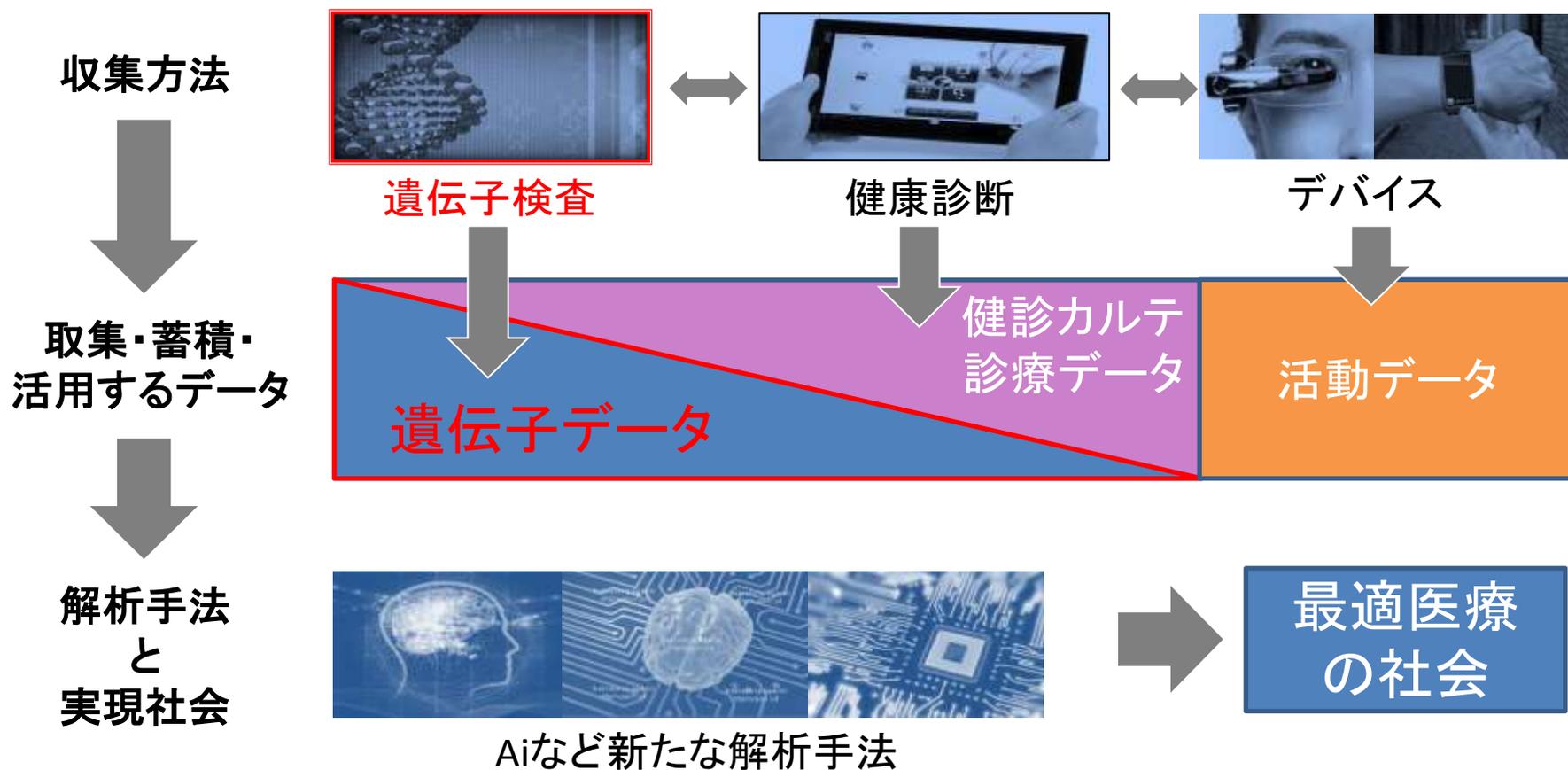
創薬企業や病院・研究機関
ターゲットのB2B販売

新規参入・競合企業



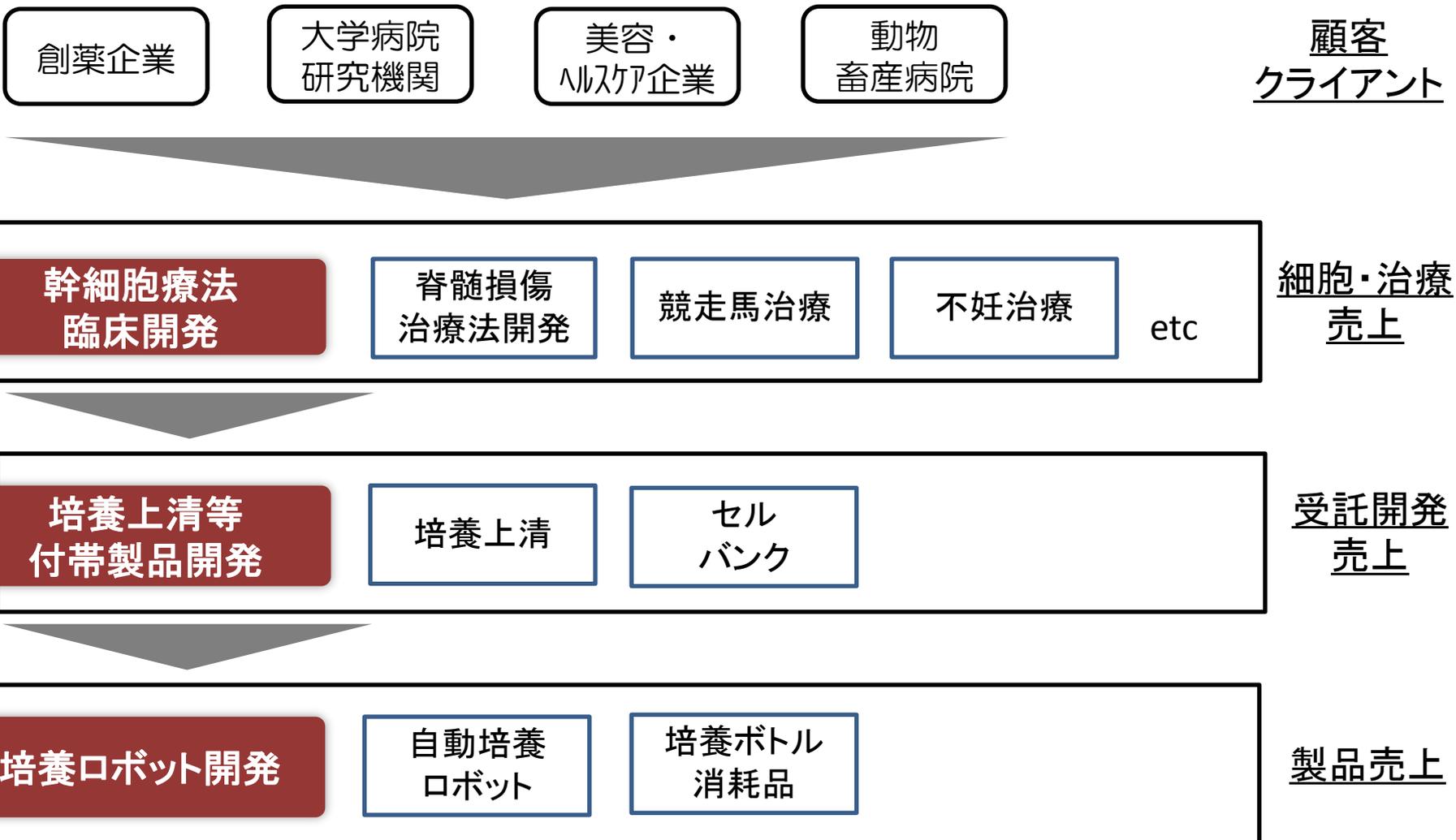
個人向けネット販売を主とした
B2C販売

3. 2015年12月期 トピックス 遺伝子データの活用と今後の展望



医療品質の遺伝子データと診療データ、活動データを統合し、
将来の病気予測や予防指針など個人に最適医療を提供する

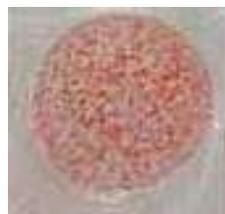
3. 2015年12月期 トピックス 再生医療事業の概要



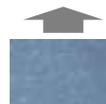
3. 2015年12月期 トピックス 幹細胞療法

ヒトや動物は、骨折や傷を受けた場合、しばらくすると自力で修復する**再生能力**を持っています。

この再生能力に着目し、障害に陥った組織・臓器の再生及び機能の修復を目指す医療のことを**再生医療**といいます。再生医療では、体内の様々な細胞に変化する可能性を持った**幹細胞**を用います。



再生能力



再生医療への応用が期待されている主な**幹細胞**

体性幹細胞

- 骨髄や脂肪組織内に存在する「間葉系幹細胞」は骨・軟骨・血管などの組織に分化が可能である。
- 既に臨床研究で用いられている。

人工多能性幹(iPS)細胞

- ヒトの皮膚細胞に遺伝子操作加え、ES細胞同様に分化能力を獲得した万能細胞。
- 話題性は高いが、細胞樹立方法は現在も改良が続けられており、**基礎研究段階**。

胚性幹(ES)細胞

- 理論上は様々な細胞への分化が可能である。
- 受精卵を用いるため、**倫理上の問題**が付きまとい、臨床応用は未だ行われていない。

3. 2015年12月期 トピックス 犬における治験の現状



3. 2015年12月期 トピックス 犬における治験の現状



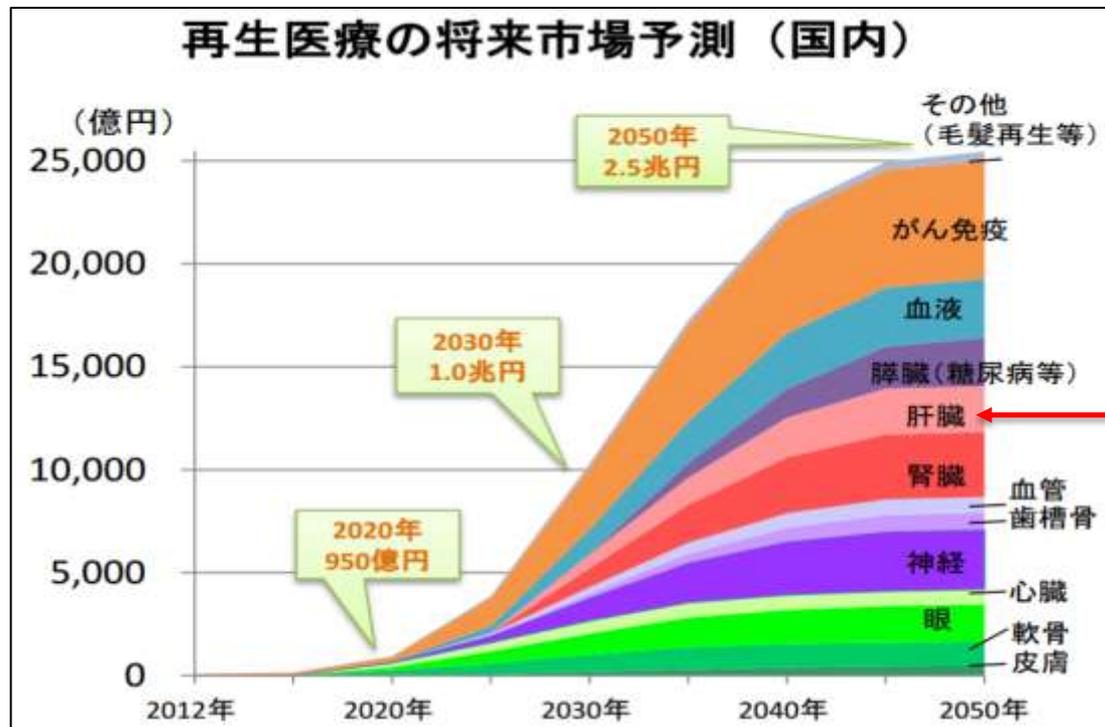
3. 2015年12月期 トピックス

動物幹細胞製剤 市場規模 当社算出

No	疾患名	罹患率	患者数	難治率	対象患者	売上	備考
1	皮膚疾患	23.00%	301,300	1.00%	3013	723,120,000	治験対象
2	耳の疾患	15.40%	201,740	1.00%	2017	484,176,000	今後拡大
3	消化器疾患	14.70%	192,570	1.00%	1926	462,168,000	今後拡大
4	眼の疾患	10.00%	131,000	5.00%	6550	1,572,000,000	治験対象
5	筋骨格系疾患	8.70%	113,970	1.00%	1140	273,528,000	今後拡大
6	腫瘍疾患	7.30%	95,630	90.00%	86067		対象外
7	泌尿器疾患	6.00%	78,600	5.00%	3930	943,200,000	今後拡大
8	損傷	4.50%	58,950	1.00%	590	141,480,000	治験対象
9	循環器疾患	3.90%	51,090	1.00%	511	122,616,000	今後拡大
10	肝・胆・膵疾患	3.80%	49,780	1.00%	498	119,472,000	治験対象
11	歯・口腔疾患	3.20%	41,920	1.00%	419	100,608,000	今後拡大
12	神経疾患	2.70%	35,370	5.00%	1769	424,440,000	治験対象
13	呼吸器疾患	2.70%	35,370	1.00%	354	84,888,000	今後拡大
14	生殖器疾患	2.20%	28,820	1.00%	288	69,168,000	今後拡大
15	内分泌疾患	1.80%	23,580	5.00%	1179	282,960,000	今後拡大
16	寄生虫症	1.10%	14,410	0.50%	72		対象外
17	感染症	0.90%	11,790	0.50%	59		対象外
18	血液・免疫疾患	0.70%	9,170	5.00%	459	110,040,000	今後拡大
	合計	—	1,310,000	—	110,839	5,913,864,000	市場規模
						2,980,512,000	治験対象 市場規模

3. 2015年12月期 トピックス

肝疾患／再生医療の市場規模



	2030年	2050年
肝臓領域の再生医療市場規模	約655億円	約2229億円
再生医療全体の市場規模	約1.0兆円	約2.5兆円

*出所:経済産業省 平成25年「再生医療の実用化・産業化に関する報告書」

3. 2015年12月期 トピックス 馬における再生医療

2014年12月27日



2015年3月21日



3. 2015年12月期 トピックス 馬 再生医療の事業モデル

馬幹細胞の分離・培養



ドナー競走馬



脂肪組織の採取



培養



幹細胞の
ストック



品質試験および保管

凍結搬送



冷凍保存



エンドユーザー

投与対象の馬



幹細胞投与



注射器による
デリバリー



海外パートナー

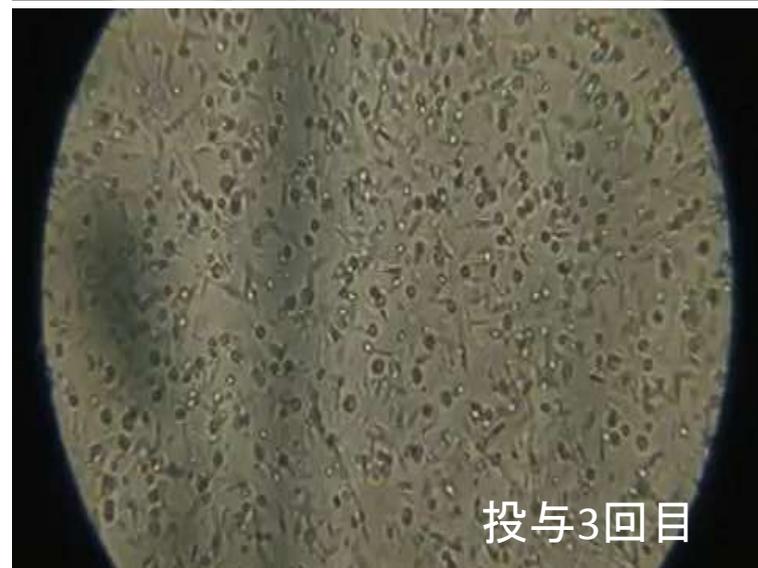
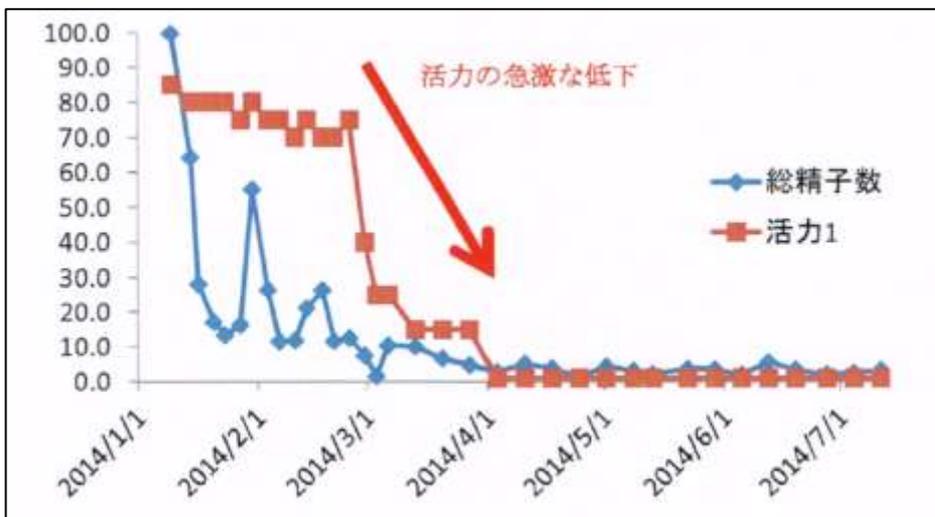


品質試験および
発送作業

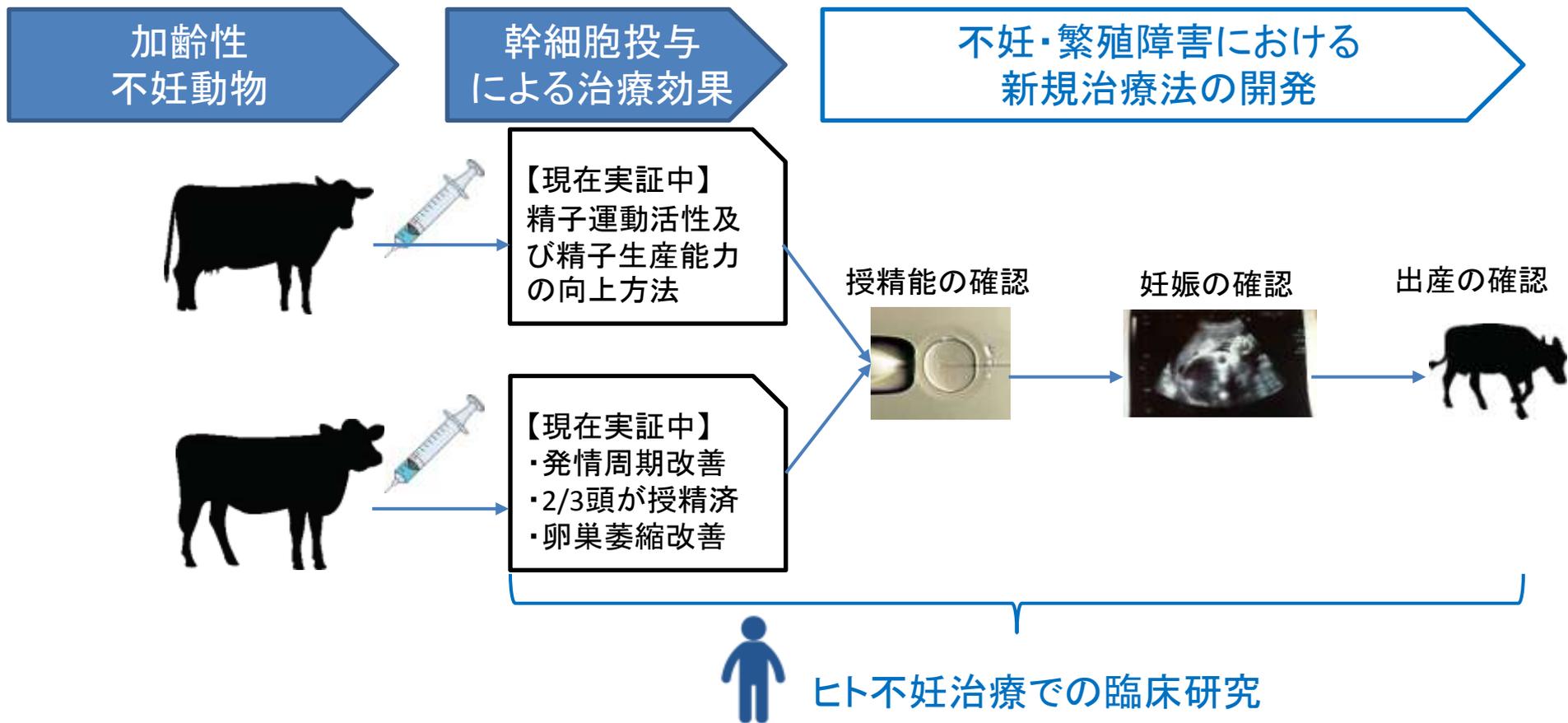


解凍

3. 2015年12月期 トピックス 不妊・繁殖障害 再生医療



3. 2015年12月期 トピックス 不妊・繁殖障害 再生医療



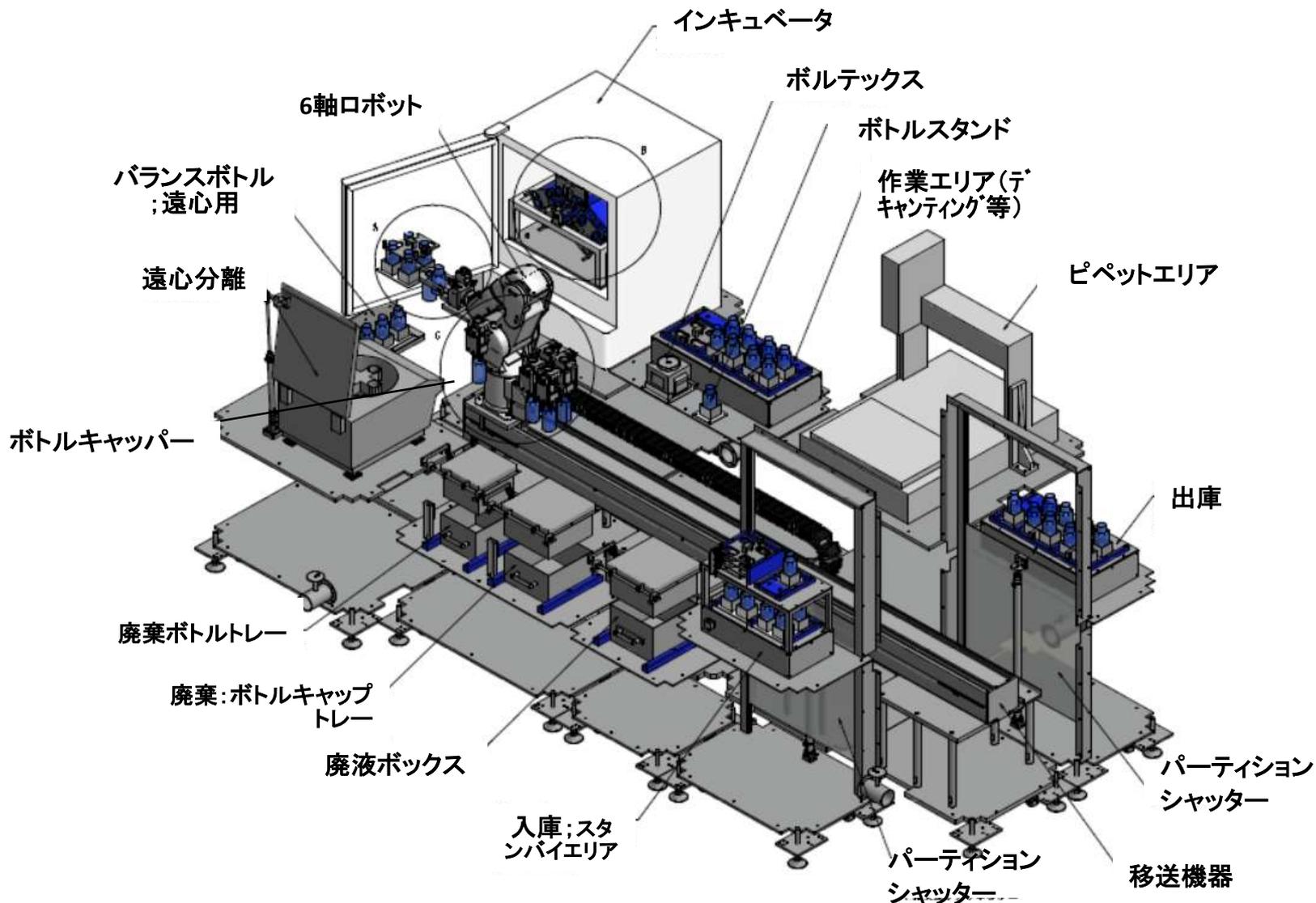
30万人いる不妊治療患者(ヒト)への、新治療法の提供、卵子・精子などの細胞バンキングの事業化を目指す。

3. 2015年12月期 トピックス 自動培養装置のコンセプト

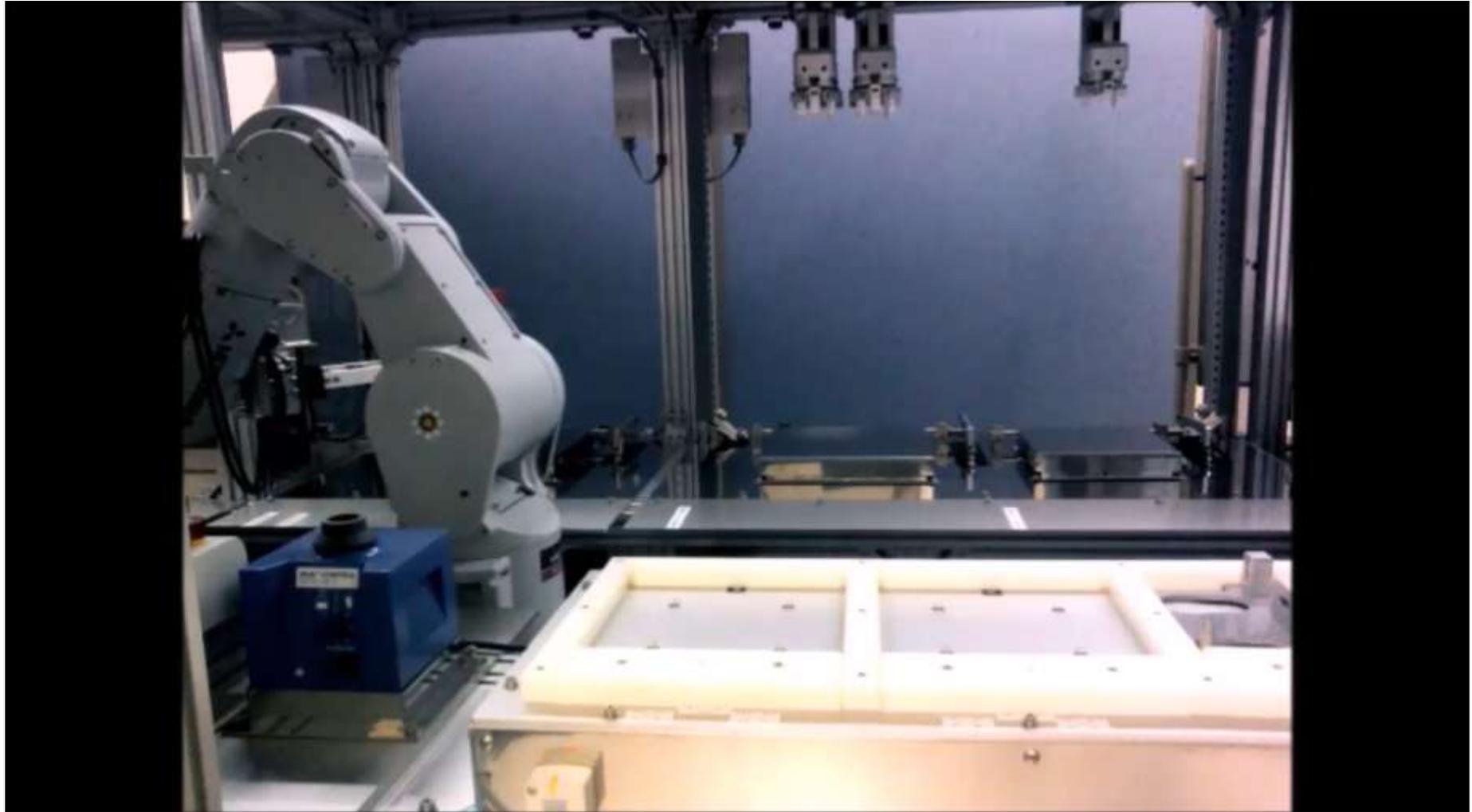
- 培地交換、継代培養、ピペッティング、遠心分離などの面倒な作業は、スケジューリングに基づき、全て自動的に実施。
- タブレットPCでの簡易操作が可能。



3. 2015年12月期 トピックス 自動培養装置 動作機構



3. 2015年12月期 トピックス 自動培養装置 コンセプト機



3. 2015年12月期 トピックス 自動培養 ロボットの開発

■ (株)デンソーウェーブ社と共同でNEDO助成事業に採択

The screenshot shows the NEDO website's news release page. The header includes the NEDO logo and name (国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構), navigation links (お問い合わせ窓口, ウェブサイトの使い方, サイトマップ, English), and search options (文字サイズ変更, サイト内検索, Googleカスタム検索). The main navigation bar highlights 'ニュース' (News). The left sidebar contains a menu with 'ニュース' selected, and a section for 'ロボット分野の情報' (Robotics field information) with five bullet points. The main content area features the title 'News Release' and the headline 'ユーザーニーズと市場化出口を明確にしたロボット活用技術を開発へ' (Developing robot utilization technology with clear user needs and market exit). The date is 2015年8月12日 (August 12, 2015), and the author is 理事長 古川一夫 (Chairman, Kazuo Furukawa). The text describes NEDO's initiative to promote robot utilization and market expansion, mentioning a joint project with Denso Wave. A '1. 概要' (Summary) section begins, discussing the current challenges of robot adoption in Japan and the government's policy to expand the market.

NEDO 国立研究開発法人
新エネルギー・産業技術総合開発機構

お問い合わせ窓口 | ウェブサイトの使い方 | サイトマップ | English

文字サイズ変更 小 中 大 サイト内検索 Googleカスタム検索 検索

ホーム 最近の動き **ニュース** 公募・調達 イベント 特集記事

NEDOについて
事業一覧
NEDOライブラリ
お問い合わせ窓口一覧(公募・制度・資料等)
ニュース
◎ ニュースリリース 一覧
◎ NEDOからのお知らせ 一覧

ロボット分野の情報

- 立ち入り困難な崩落現場で活躍するロボットの実証実験を開始
- ユーザーニーズと市場化出口を明確にしたロボット活用技術を開発へ
- 次世代人工知能技術の研究開発に新たに着手
- 革新的ロボット要素技術の研究開発に新たに着手
- 府省の枠を越えてSIPインフラモニタリングシステム現場実証事業を開始

ホーム > ニュース > ニュースリリース 一覧 > ユーザーニーズと市場化出口を明確にしたロボット活用技術を開発へ

News Release

ユーザーニーズと市場化出口を明確にしたロボット活用技術を開発へ

—ロボットの導入業種と分野の拡大を目指す—

2015年8月12日

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
理事長 古川一夫

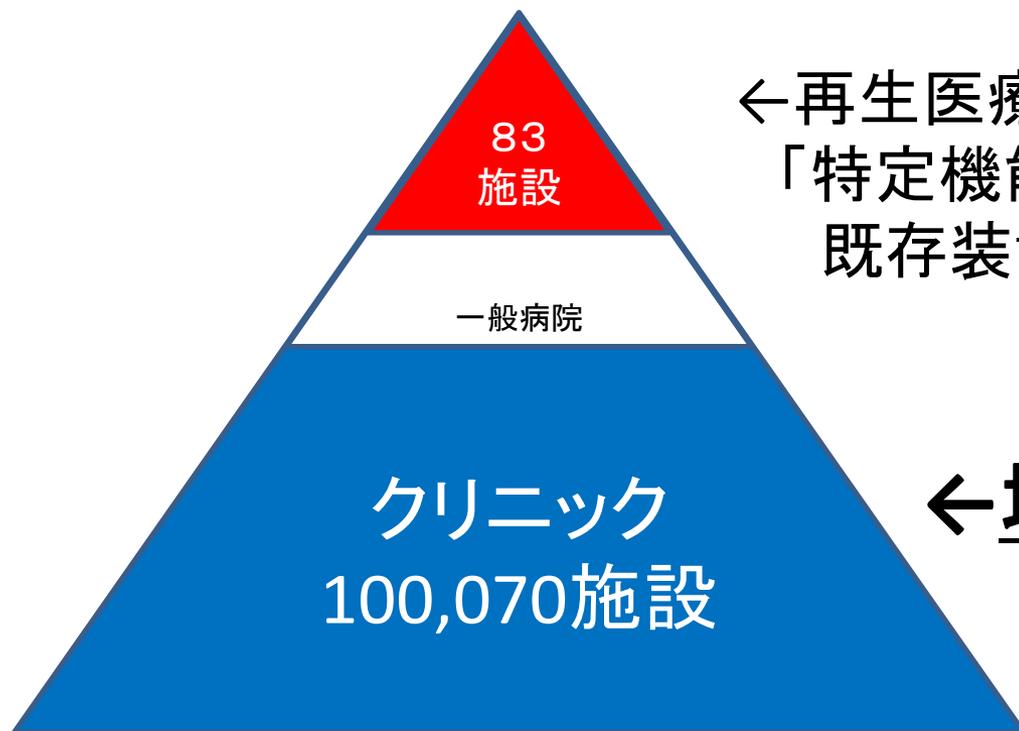
NEDOは、ロボットの活用・普及の促進に向けて、ユーザーニーズと市場化出口を明確にしたロボット活用技術開発を実施します。

本事業では、ものづくり分野およびサービス分野を対象としたロボット活用技術を開発することにより、新たにロボットを導入する業種・分野、工程の拡大を図るとともに、システムインテグレータ(Sier)との協業やロボット活用事例の周知も併せて推進し、ロボットの市場規模の増大を目指します。

1. 概要

現在、少子高齢化に伴う人手不足やサービス部門の生産性の向上という日本が抱える課題の解決の切り札としてロボットが注目されており、日本の成長産業として育成するためにも、市場におけるロボットの活用・普及を促進するための技術開発の必要性が高まっています。また、ロボット革命実現会議^{※1}においてとりまとめられ、2015年2月に日本経済再生本部決定された「ロボット新戦略」^{※2}では、技術開発や規制緩和により2020年までにロボット市場を製造分野で現在の2倍、サービスなどの非製造分野で20倍に拡大するといった数値目標が設定されるとともに、ロボット革命の実現に向けた政策が示されています。

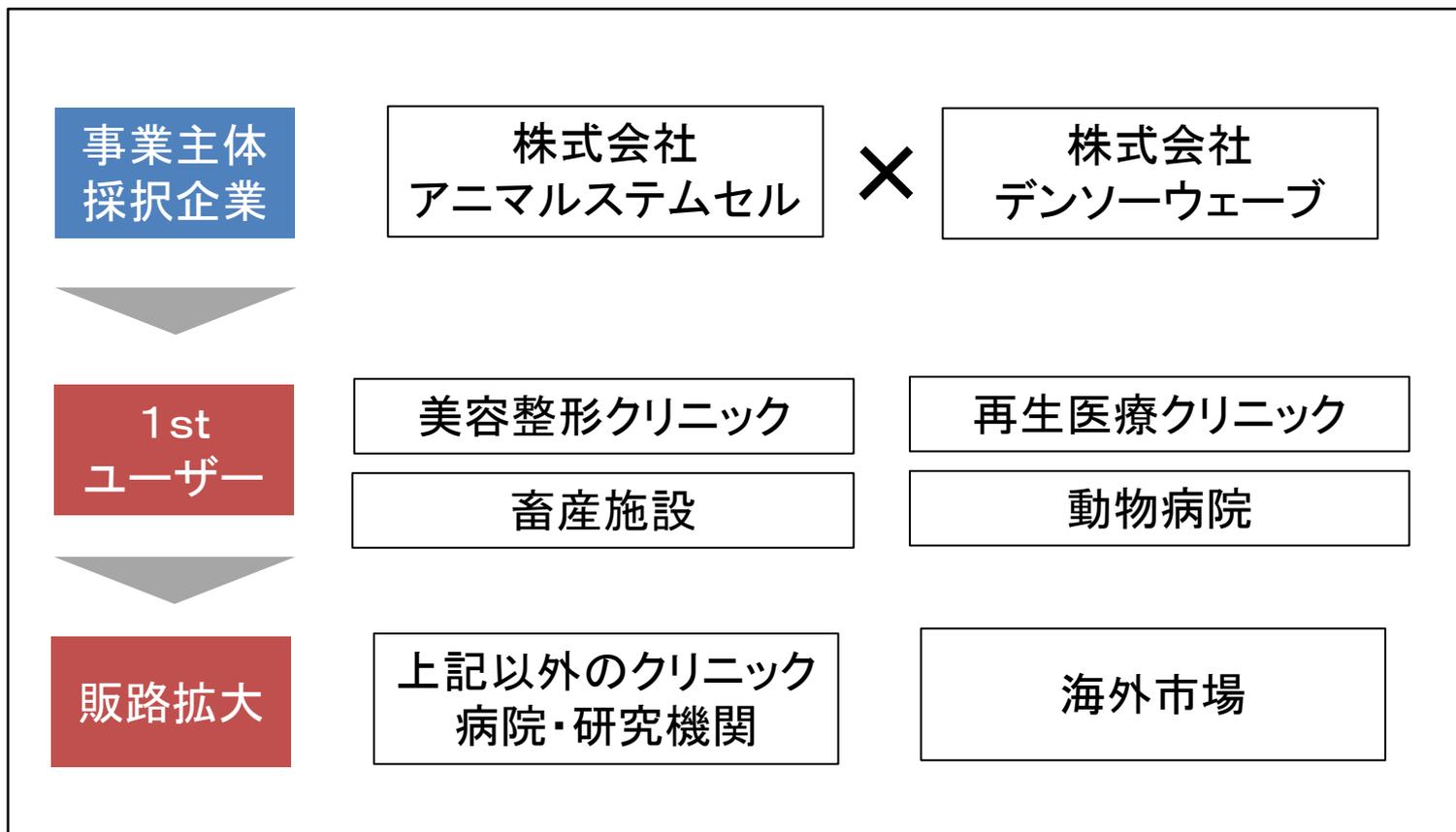
3. 2015年12月期 トピックス 自動培養ロボットのターゲット市場



←再生医療など先進医療を提供する
「特定機能病院」
既存装置のターゲット市場

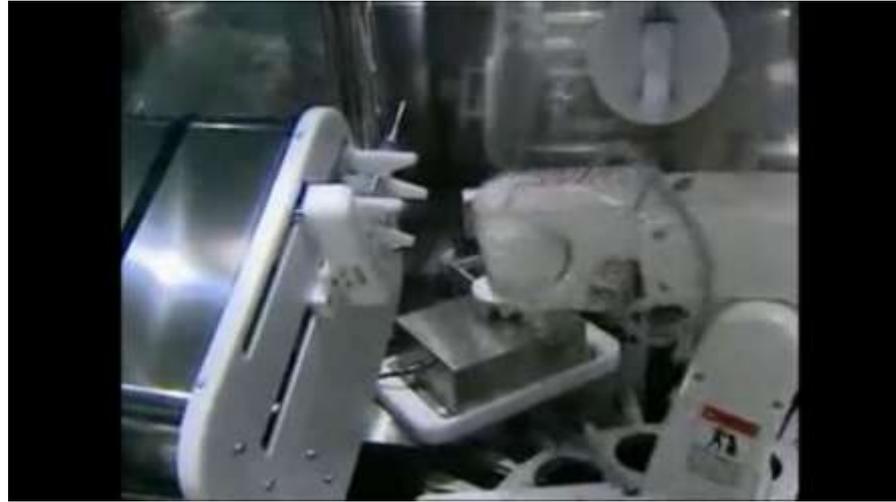
←培養ロボットシステム
のターゲット市場

3. 2015年12月期 トピックス 自動培養ロボットの事業形態



3. 2015年12月期 トピックス 自動培養ロボットの動作機構

シリンジへの溶液装填



キャップの開閉



遠隔操作

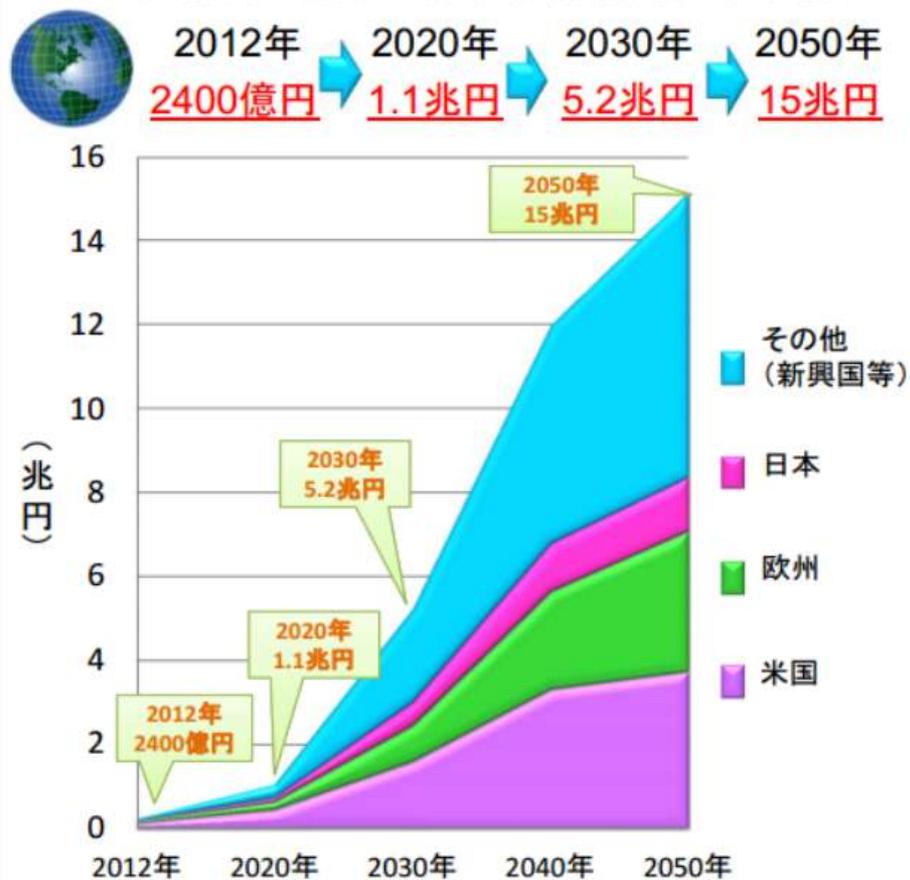


3. 2015年12月期 下半期トピックス 再生医療周辺事業の市場規模

再生医療周辺産業の将来市場規模予測(国内)



再生医療周辺産業の将来市場規模予測(世界)

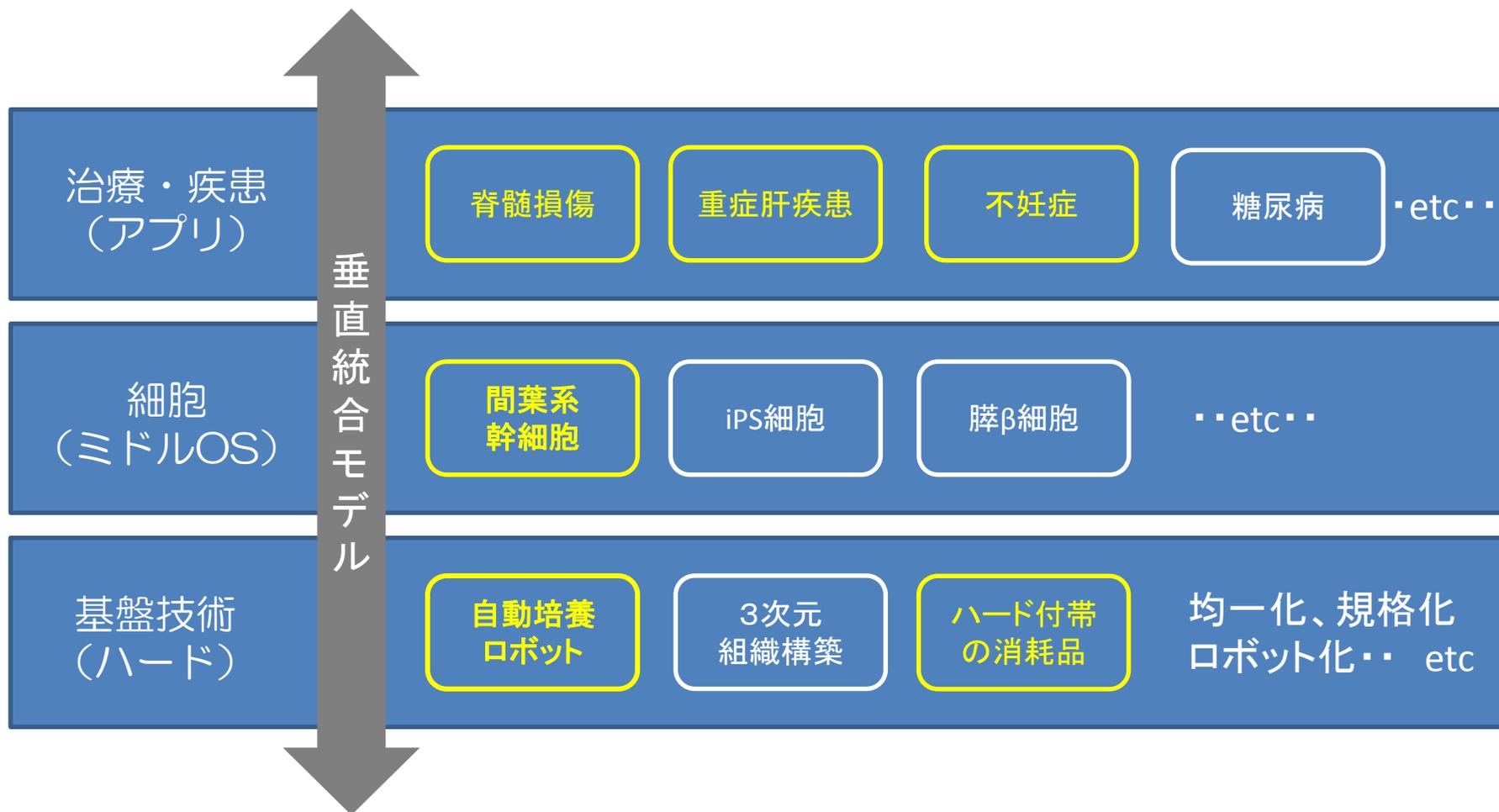


出典: 経済産業省2013

3. 2016年以降の展望

メディビックグループの再生医療戦略

- ハードからアプリまでを自社で提供する再生医療の垂直統合ビジネスモデルを早期に確立する。



3. 2015年12月期 トピックス 創薬事業の現状

【対象症例】 化学療法後に再発、または難治性膵臓がん患者

【目標症例数】 480人(80サイトの開設が目標)

【試験デザイン】 無作為化(ランダム)非盲検試験

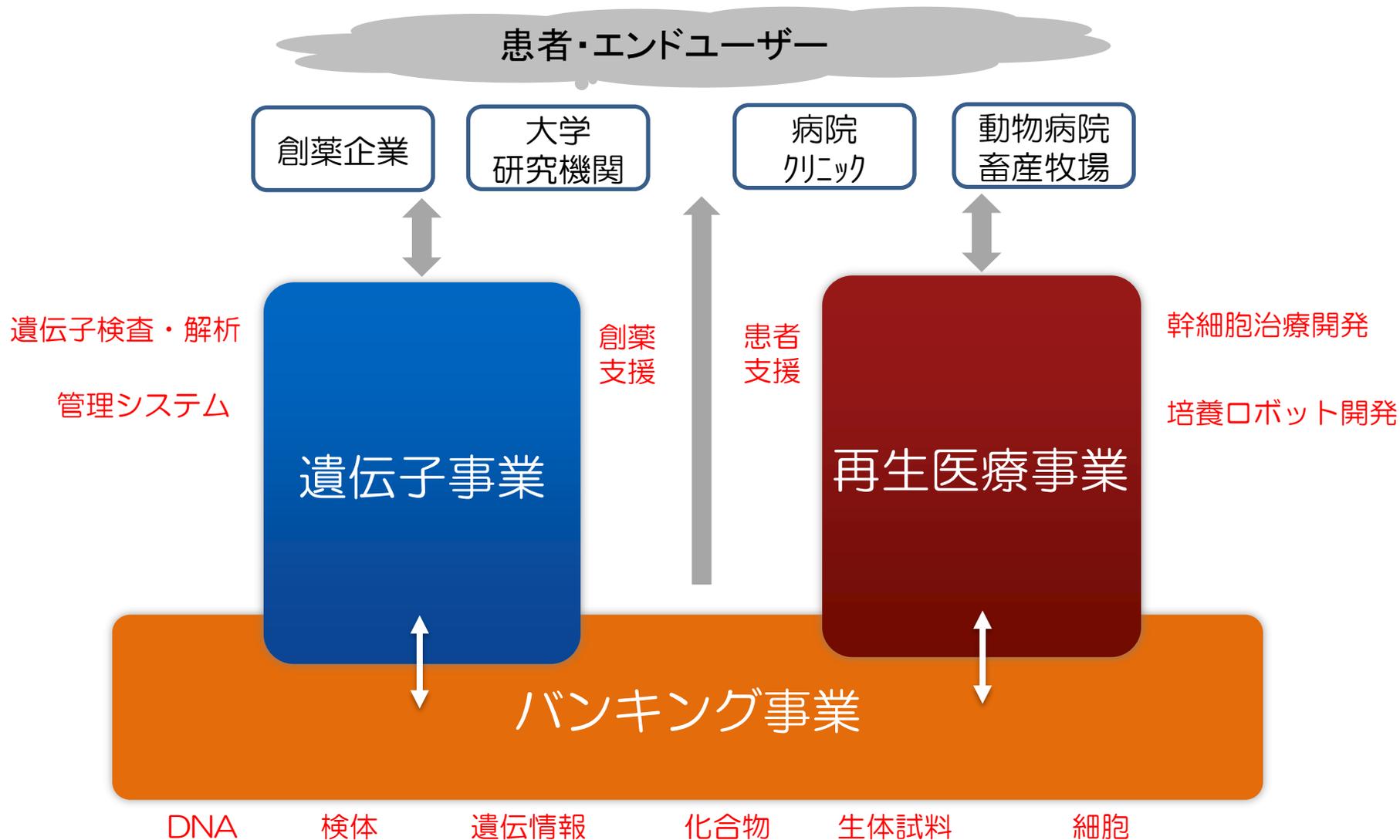
エライゾン社は、米国食品医薬局(FDA)とSPA(Special Protocol Assessment)協定を締結しており、試験完了後に新薬承認申請をFDAに提出予定。

開発スケジュール(米国)



*: 完治が難しい疾患に対し、高い治療効果が期待できそうな新薬をFDAが優先的に審査する制度。

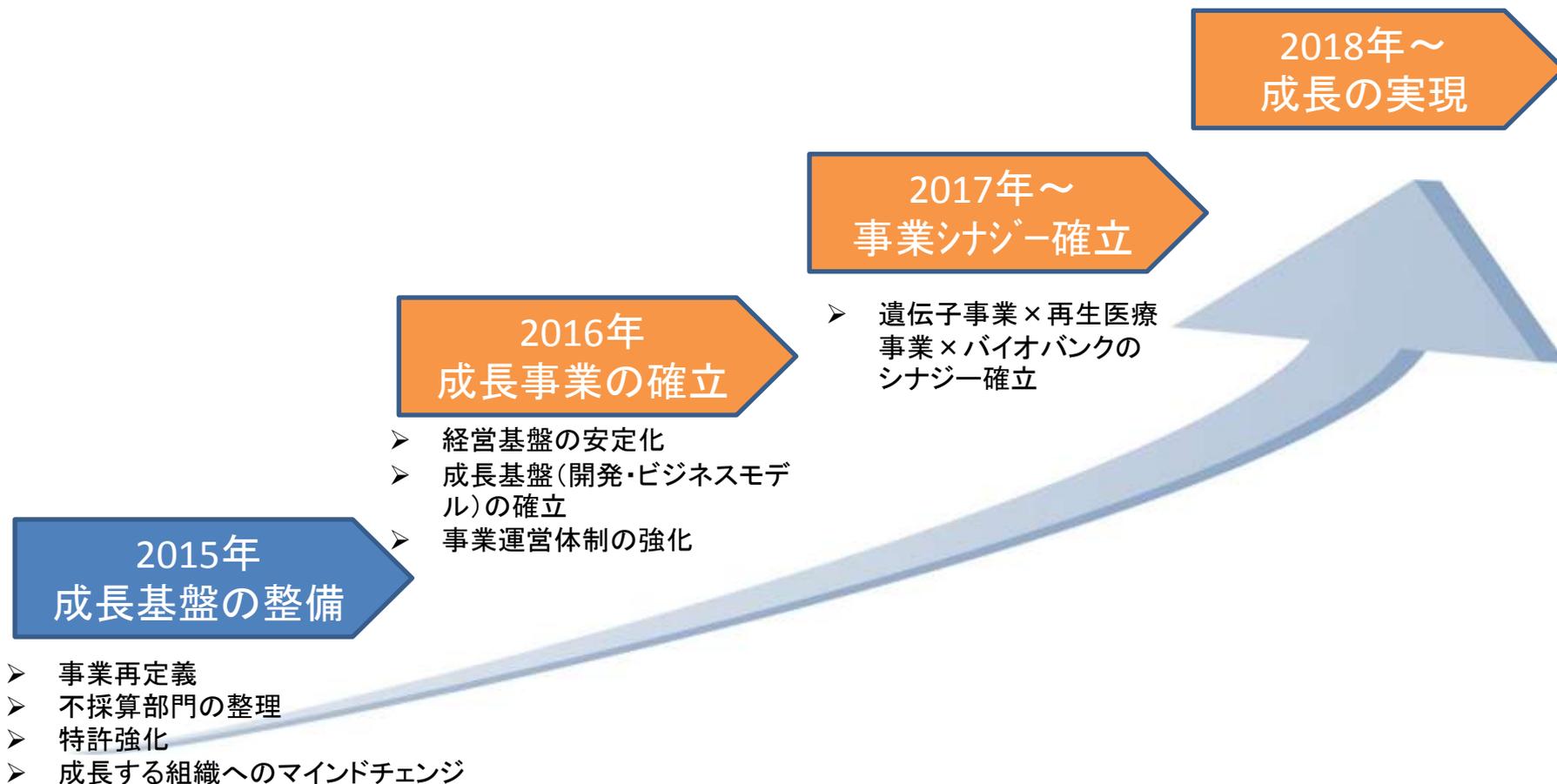
4. 2016年以降の展望 メディビックグループの事業構造



4. 2016年以降の展望 事業パイプライン

	2015年	2016年	2017年	2018年
I. 遺伝子事業	事業再定義 営業基盤の強化・業務提携		成長路線へのシフト	
II. 再生医療事業	基盤技術・特許強化	バイオバンクシナジー 販売網の構築 製造ライン構築	NEDOロボット開発事業 成長路線へのシフト	
IV. 創薬事業	Ph. III (米国) アジア地域での支援およびリスク管理の強化			

4. 2016年以降の展望 中期経営の方針



MediBic Group